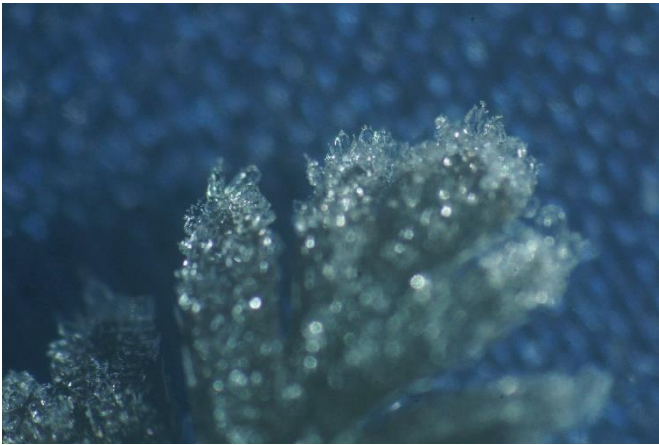


<霜の顕微鏡写真：広島県安芸高田市高宮町野部（令和2年1月19日）>

昨年と異なり、この冬は今のところ雪が全く降りません。代わりに霜の顕微鏡写真を撮りました。朝、7時から8時ごろは十分明るく、かつ霜は形を変えることなく残っています。かき氷（160g）に塩（70g）を加えて混ぜ、マイナス20度の低温を作り容器に入れます。その上に黒、または青色の布を入れた瓶の蓋を乗せて冷やし、外に持ち出します。ピンセットで霜が付着した葉っぱをつまみ、布の上に乗せて持ち帰り、顕微鏡で観察します。霜は形を変えることなく1～2時間保存できます。雪の顕微鏡撮影の場合と同様に、マルチカラー照明で撮影した方が、霜の構造がわかりやすくなります。霜でもまともな雪構造（角柱など）になっている物があります。霜が降りた集落の様子も写真で撮りました。



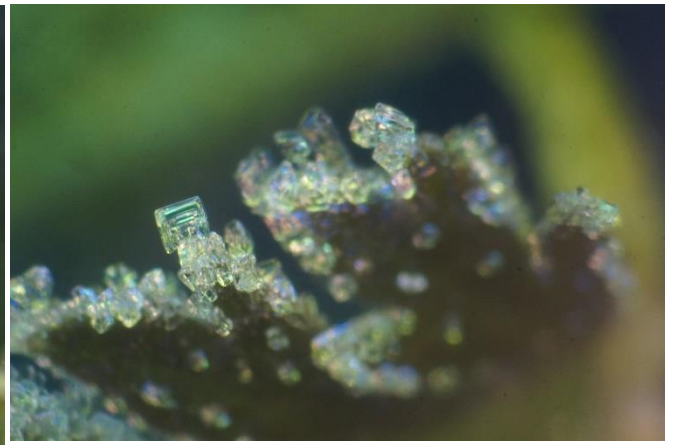
葉っぱの先の霜（通常照明、x 20）



葉葉っぱの先の霜（通常照明、x 40）



葉葉っぱの先の霜（カラー照明、x 20）



葉葉っぱの先の霜（カラー照明、x 40）



葉葉っぱの先の霜（マクロレンズ使用）



猫じゃらしにできた霜（マクロレンズ使用）



雑草に降りた霜



霜が降りた集落



畑に降りた霜